

YOUTH SERVICE

特集

若者×

vol.23
vol.35

23

これまで若者の今を追う「特集」ページでは、4年間13回にわたり「若者×〇〇」と題して、若者や若者を取り巻く現状を、テーマごとに切り取り、今の若者の声、過去の若者や年代との比較、専門家による分析などから紹介してきました。2020～spring春～多くの若者が新たなスタートを切る季節。これまで紹介してきたテーマによる違いや共通点など、「若者×〇〇」をふり返ってみたいと思います。

もし気になる「若者×〇〇」がありましたら、ぜひ過去号を手にとってご覧いただければと思います。

今回はテキストマイニングの手法を使い、①出現率の高い、②特徴的な=テーマを象徴するキーワードを**タグ**として記入しています。

●=テーマ選択の経緯、本文抜粋、要約など。



若者×スポーツ
YOUTH SERVICE vol.23
2016年1月1日発行

#スポーツ #ダブルダッチ
#スケートボード #障がい #サポーター

- ダブルダッチやスケートボードといった若者が多く楽しむスポーツ、障害者スポーツを取り上げました。
- する、見る、支えるといった、楽しみ方の違いなど、スポーツに見る若者の価値観は変化してきている。



若者×ダンス
YOUTH SERVICE vol.25
2016年9月15日発行

#ダンス #踊る #対話 #楽しさ #続ける #真似る #スタイル

- 南青少年活動センターではダンス利用が多いことから、若者のダンスへの想い、過去現在未来を取り上げました。
- Q:今後もダンスを続けますか?
A:「踊りたいと思う限りは続けます」
- 「我踊る故に我あり」(=寄稿タイトル・遠藤保子)



若者×多文化共生
YOUTH SERVICE vol.26
2017年1月23日発行

#多文化共生 #留学生 #ネットワーク #ちがいがい #就職 #ルーツ #受け入れ

- 伏見区は、外国にルーツを持つ住民が比較的多いこともあり、伏見青少年活動センターは、事業の柱の一つとして多文化共生の啓発を掲げていることから特集テーマに取り上げました。
- 「多文化共生で大切なことは「ぶつからないこと」ではなく「ちがいにどう向き合うか」。



若者×結婚
YOUTH SERVICE vol.24
2016年4月1日発行

#結婚 #離れ #離婚 #養う

- 若者の「結婚離れ」を切り口に、結婚という「カタチ」について取り上げました。
- 「カタチ」の変化がみられるからこそ、どのようなつながり、どのような関係性を築いていけるかといった本質が大切。

ぷちメッセージ

この先を見据えて



認定NPO法人D×P
生徒と社会をつなぐ事業部
野津 岳史

大阪を拠点に、オンラインでの相談サービスや、関西・関東・北海道の定時制高校で高校生と多様な人がつながる居場所づくりや授業を行う「認定NPO法人D×P」で働いています。京都市ユースサービス協会さんとは、京都市の定時制高校で居場所づくり事業を共同運営させていただいております。

D×Pでは定時制高校での人とのつながりをつくるサービスを中心としてきましたが、近年オンライン相談事業にも力を入れてきました。特に現在は新型コロナウイルスの影響によって、オンライン相談のニーズが高まっています。きっと、この情勢の中、オンラインでのサービスは成長すると思います。

ただ、だからこそ、対面でのつながりが希薄になり、これを越えた先には対面でのつながりの価値がより高まるのでは、と考えています。

今は、若者と関わる現場はとて難しい状況にあると思います。でも、この状況を越えたとき、対面での人とのつながりの価値が高まったとき、すぐに応えられるよう、何とか堪え、力を蓄えていくことが必要じゃないかと思っています。未来を見据え、一緒に乗り切っていきましょう。

contents

- 3 特集 若者×〇〇
- 6 高校生が作ったページ 高校生が「ICカード」について考える
- 8 シリーズ はたらく若者
- 10 TOPICS 青少年活動センターのつかい方
- 14 ユースかわら版 ARTと笑顔で 満ち溢れた世界に ほか

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。



カフェ
〒606-8007
京都市左京区山端町田町8-48(北山通り側) ☎075-755-6504
叡山電鉄 修学院駅より徒歩2分

イチョウガ
15:00～22:00 売り切れ次第終了
水・日曜定休 不定期でけっごお休みあり
※facebook・Instagramでご確認ください

巻ス タ ン プ



ラ ッ プ & ロ ー ル

これからは、ふちコロコロする、
ゆわいなお客さん達に合わせた、
つくっているうちに、目指している
公民館の道場には、
少しづつ広がってほしい。

巻物にはいろいろな巻物を通して、
お店にはいろいろな人を巻き込んで、
なにもなくてもいい時、巻物にしかりに巻くこと、
巻物に巻く時間も決める場になる、
めいめい巻く。



お店の壁や棚などを使っての作品展示や、弾き語りライブで特技を披露してもらったり
ワインミーティング、流しうめんど、お店での雑談からうまれるイベントをしたり。



お店で使えてもいいな、オムライスで巻いた時
なにもなくてもいい時、巻物にしかりに巻くこと、
あ、巻物も巻いていってほしい。





33

若者×NEXT10Years
YOUTH SERVICE vol.33
2019年4月1日発行

- #社会 #ユースワーク #余暇 #民主主義 #私たち #目指す
- ユースサービス協会30周年の節目に、今年度1年をかけて、『Next10Years』と題してビジョンを考えて発信していく。今回の特集では、2019年1月に行ったYS協会職員によるワークショップについて報告しました。



若者×つながる
YOUTH SERVICE vol.32
2018年12月1日発行

担当:子ども若者総合相談窓口・支援室

- #SNS #LINE #友だち #見知らぬ人 #日常 #送る #知り合う
- 「なるほど!」「こういう風にSNSを使っているのか」と知ってもらえるように、実際に活発にSNSを使っている若者に話を聞き、その実態を覗いてみました。
 - 誰と繋がるのか、どのような内容を話すのかはSNSによって上手に使い分けていました。LINEでのやりとりは友だちや知り合いが多く、Twitterよりも相手との距離感の近さが出ている……。
 - 危機管理の工夫から相談は直接会って話したり、電話で相談したりという慎重な面も。
 - 共通の趣味や関心から見知らぬ人とも出会う入口にもなっており、そこで関係性ができると深い話をすることもある。



28

若者×ハコ～やませい99時間～
YOUTH SERVICE vol.28
2017年9月1日発行

担当:山科青少年活動センター

- #やませい #ロビー #職員 #テニス#コトバ #ボードゲーム #呼び出す
- 「青年の家」「青少年活動センター」として「ハコ」を維持してきました。しかし、青少年施設にはどんな人たちが来ているのか、外からはわかりにくいことも多いと思われます。もう少し「ハコ」の中のできごとを多くの皆さんに知っていただけるように取り組んだ試みです。



若者×地域ボランティア
YOUTH SERVICE vol.27
2017年4月1日発行

担当:北青少年活動センター

- #地域 #祇園祭 #学生 #地域住民 #ふれあう #動機
- 「研究者、ボランティア、ボランティアコーディネーターという三つの立場から、地域でボランティアする面白さ、苦心、工夫等を感じてください!」
 - 「経験や力量不足で、活動の現場で役に立てず悔しい思いをすることもありますが、そうした経験が、若者たちに、よりよい活動を行うために必要な資質や能力は何かという気づきを与えてくれます。若者たちの『自分探し』はやがて『社会の中での自分探し』へと変わる。」



35

若者×ジモト
YOUTH SERVICE vol.35
2019年12月15日発行

担当:下京青少年活動センター

- #京都 #学生 #地方都市 #大企業 #地元 #暮らす #働く
- 「大学のまち」「学生のまち」とよばれる京都市。京都を軸とした若者たちの「ジモト」観に迫りました。
 - 京都に来たきっかけで「京都だから」という明確な理由17%と少ない。逆に「受かった」大学が京都だった、という回答が多い。
 - 「卒業後も京都で暮らしたい」という比率は28%と予想外に低い。
 - 京都出身者は半数が「京都で暮らしたい」と回答している。学生と社会人で回答に開きがある。
 - 「地元で暮らしたい」という学生はほぼ1/3(紙面アンケート)

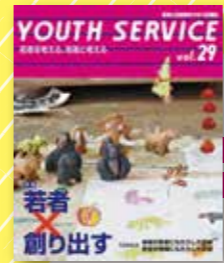


34

若者×余暇
YOUTH SERVICE vol.34
2019年9月15日発行

担当:中央青少年活動センター

- #理想 #現実 #暇 #勉強 #寝る
- 「現代の学生は忙しい」。では、どのように余暇を過ごしているのかに焦点を当てました。
 - 「理想:昼過ぎに起きる。ゴロゴロしながら映画とか観る。夕方から古着屋に行く、友達と飲みに行く。現実:朝早く起きる、夜まで働く、家に帰って寝る。」
 - 「理想:1日8時間社交ダンス 現実:授業後～寝るまで課題」
 - 「問われるべしは『余暇の意義』が問われる世の中の在り方そのものであり、この問いが出てきた背景にこそ私たちは向き合う時が来ているのではないか。」

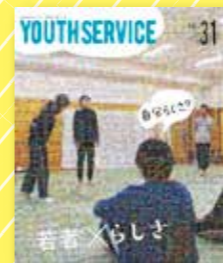


29

若者×創り出す
YOUTH SERVICE vol.29
2017年12月1日発行

担当:東山青少年活動センター

- #芸術 #障がい者 #思いがけない #アールブリュット #ボランティア #他者
- 「頭の中で描いているものを表現する方法であり、縛りがなく自由で終わりが無い活動だと思います。」
 - 「『個人が認められ、尊重される』空間での創作活動には(1)自分を表現する(2)他者に受け入れられる(3)他者を受け入れる」
 - 既成概念にとらわれない自由な発想で生み出されたものを通して新しい価値観を感じることができます。



31

若者×らしさ
YOUTH SERVICE vol.31
2018年9月1日発行

担当:京都若者サポートステーション

- #サポステ #職業選択 #好き #納得 #答え #トレーニング
- タイトルを「自分らしさ」としてしまおうと、自分だけで決めないといけないような印象があるので「らしさ」だけにしました。自分の価値観だけで決める必要はなく他者、社会の影響も含めて形成されている「らしさ」に触れる特集。
 - 「職業選択」と「自分らしさ」



30

若者×30
YOUTH SERVICE vol.30
2018年4月1日発行

- #京都市 #ユースワーカー #センター #設立 #支援 #幅広い #先駆ける
- 広報誌30号特別記念号!“協会と若者にまつわる30のコト”をコンセプトに、1～30までの数字にまつわる話題を紹介。
 - 「5…京都市民の5人に1人が若者」「28…平成28年度利用者数51万人」

若者×○○の編集を通して

「若者を語る」、もとい「若者と語る」うえで「若者×○○」は無限に広がりを見せています。携帯電話はティッシュボックスサイズからかまぼこ板まで小さくなり、電話をかけるだけから動画を見たり配信したりもできるようになりました。労働形態の変化としては正社員が当たり前と言えなかったり、グローバル化が進むことで多くの外国人が京都を訪れるようになったり、結婚したカップルのうち3組に1組は離婚していたり。道具や社会環境の変化とともに、それを使い、そこで生きる若者の文化そのものが変化しているのだと言えます。

一方、これらの変化を捉えることで学び、挑戦、楽しみ、人とのつながり、応援など普遍的なものも見えてきたように思います。また、1つのテーマ、1回の特集だけでは気付かえなかったものだと思います。

「○○」は、一つの側面です。今後も変化していく時代の中で「若者と語る」きっかけとして、あなたらしい、お気に入りの「○○」を見つける一助になればと思います。

編集担当グループ